

## 編集後記

今年度も富山大学杉谷キャンパス研究活動一覧40輯を刊行することができました。発刊に至っては、ひとえに各講座の担当者、編集委員の先生、図書館事務の方々など、関係各位の協力と努力の賜と感じております。改めて謝意を述べさせていただきます。

三年前に一度編集委員長の任を携わって機会がありましたが、再度、同任を担うとは思っておりませんでした。滞ることなくキャンパス内外の講座・部署にお届けできました。前回も述べましたが、多くの方々には「輯」の文字にはあまり馴染みがないかと思われ。この文字の意味するものは、様々な情報を纏めたものを指しており、我々の病理学分野では身近に「剖検輯報」にも使われており、所謂、データベースの役割とも言えます。即ち、この中には様々な業績について杉谷キャンパスの各講座・部署における関係者の一年間の総まとめをこの一冊に集約したものであります。一頁一頁・一行一行には各人の努力の結晶が詰め込まれていると言っても過言ではありません。本輯の刊行を見直そうとする意見もありましたが、多くの方々の賛同もあり、続ける意義は深いと思っております。各頁を紐解けば、各研究者の努力の成果の完成形が集約されており、ご覧頂いても、どれ一つをとってしても杉谷キャンパスの誇りとも言える内容が網羅されていると思います。また、この地で研究に従事する関係者間における横の連携にも役立つのではないのでしょうか。日頃、交流する機会の少ない中で、各人がどのような研究を行っているのか？その点からも本輯をご覧頂いて、身近に分野を共有する研究者が存在することも掴めることが出来、そしてこの機会に交流を深め、共同研究へと繋がっていくのならば、本輯の目的を達せるとも言えましょう。その様な点をからも本輯の果たす役割は重大と思えます。そして各研究者のモチベーションの向上に向けて本輯が役立つのならば、編集者の一人として携わった甲斐があるかとも思います。

最後に、笹野一洋先生、西条寿夫先生、黒田敏先生（医学部）、中野実先生（薬学部）、小泉桂一先生（和漢研）、そして市吉郁代様、内藤綾子様並びに貴村好隆様をはじめとした医薬学図書館スタッフの方々の御尽力に深く御礼申し上げます。

編集委員長 井村 穰二